

支援センター名	栃木県生涯学習ボランティアセンター	
所在地	〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町 1070 (栃木県総合教育センター内)	
連絡先	Tel 028-665-7207 Fax 028-665-7219 ホームページ http://www.rainbow-net.pref.tochigi.jp/	

事業の概要とポイント

- ①公民館から、地域の小学生を対象に英会話教室を開催したいので、ボランティアを紹介してほしいとの相談を受け、ボランティアセンター登録者の中から該当者を捜し、両者を結びつけた。受け入れ側とボランティアの間で、日程や活動内容等の交渉・調整に当たった。
- ②生涯学習ボランティアセンターや幼児教育センター機能を併せ持つ総合教育センターの施設開放事業で、子どもたちに様々な体験活動の機会を提供するとともに、活動を支援するボランティアの養成や活動の場とした。
- ③県内の各青少年教育施設等におけるパソコン関係研修等を、より充実させるためにサポートするボランティアをコーディネートした。

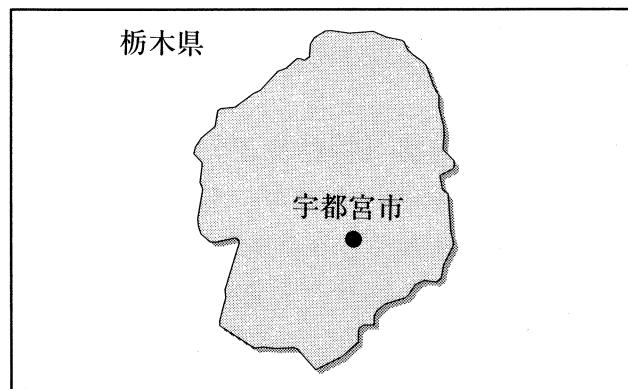
関係した学校・団体の名称

- ①日光市中央公民館，栃木県生涯学習ボランティアセンター登録者
- ②栃木県生涯学習ボランティアセンター登録者，栃木総合教育センター各部（管理，生涯学習，研修，研究調査，教育相談，幼児教育），ウィークエンド青少年セミナー受講者，生涯学習ボランティアコーディネートセミナー修了者，メディアボランティア養成講座受講者，栃木県メディアボランティア，センターボランティア等各ボランティアグループ，ボランティア活動希望者
- ③太平少年自然の家，今市少年自然の家，芳賀青年の家，烏山青年の家，県立図書館，栃木県メディアボランティア，メディアボランティア養成講座受講者，栃木県生涯学習ボランティアセンター登録者

地域の現況・特色

活動対象地域の栃木県の人口は2,007,512人、面積は6,408.28平方キロメートル、市町村数12市35町2村である。

本県の生涯学習ボランティア活動促進事業の特色は、青少年から高齢者まで広く県民が、これまでに蓄積した学習の成果を地



域社会の中で生かすことができる環境整備を図るために、本生涯学習ボランティアセンターを中核となし広域的・総合的に事業を実施していることにある。

具体的には、①生涯学習ボランティアセンターネットワーク促進委員会、②ボランティアの養成・研修事業、③情報提供・相談事業、④ボランティア交流の場の提供等を積極的に実施している。

企画から活動までの経緯

- ①・日光市中央公民館から、地域の小学生を対象に英会話教室を開催したいので、ボランティアを紹介してほしいとの相談を受けた。
 - ・当ボランティアセンター登録者の中から、海外青年協力隊や国連ボランティアの経験があり、英語やアラビア語を得意とする人を紹介した。
 - ・学校の2学期中に5回開催という条件をめぐり、受け入れ側とボランティアとの間の調整を図った。
 - ・最終的に「英会話を通して、外国の人や外国の自然、人々の暮らしに関心を高め、国際的な視野を広げる」ことを目的として実施することで合意し、開催となった。
- ②・栃木県総合教育センター開放事業「学びの杜の夏休み」も本年度4回目となり、体験活動ボランティア活動支援センターを設立したことも踏まえ、例年以上に体験活動ボランティアの活動の場を増やすことを1つの目標としてスタートした。
 - ・開放事業は子どもたちの体験活動を支援するためのボランティア養成の一環とした。
 - ・当ボランティアセンター登録者の中から活動支援ボランティアを募集したり、一般県民からも活動希望者を募り、延べ219人の参加を得た。
 - ・ボランティアによるプログラムの企画立案から実施までをコーディネートした。
- ③・県内の各青少年教育施設等から、パソコン関係の教室・講座・研修を実施する際のボランティアを紹介してほしいとの相談を受けた。
 - ・当ボランティアセンター登録者の中から、メディア関係のボランティアや、当センターを会場として相談活動を実施しているグループ「栃木県メディアボランティア」、あるいは「メディアボランティア養成講座」受講者等に依頼し、ボランティア活動希望者を募った。
 - ・会場や回数も雑多であるため、ボランティア活動希望者間・受け入れ施設間との連絡調整を繰り返し行った。

事例の展開内容（特色など）

- ① 英会話教室はA・Bの2コースを設定。Aコースは小学4年生以下、Bコースは5、6年生が対象で、兄弟姉妹ぐるみの参加が多いのが特徴である。指導者はカナダ人講師とボランティア講師の2人で、カナダ人講師が主に会話を担当し、ボランティア講師は地球儀や写真を使った世界の国々についての楽しいお話で、毎回子どもたちを引きつける工夫をした。

今回の事例では、豊富な海外でのボランティア体験を持ち、しかも現役の企業の研究者

で、子どもたちに伝えたいことをたくさん持っている人を紹介することができた。毎回スムーズに英会話教室が展開できるよう、定期的に両者と連絡をとり、活動状況の把握に努めた。

- ② 開放事業では、子どもの遊び活動・学習活動を支援するため49の多彩な活動プログラムを展開した。その中で、ボランティアの企画立案によるプログラム（親子お絵かきパソコン教室、まゆ玉で動物をつくろう、学びの杜のオンステージ等）を実施した。

各プログラムを支援するためのボランティアとして、ボランティアセンター登録者の他に、高校生・大学生や教職員等延べ219人がボランティアとして活動した。

- ③・太平少年自然の家「パソコン教室」のボランティア講師の紹介依頼に対し、栃木県メディアボランティア会員1名を紹介した。ボランティア講師の評判がよく、活動日が増えていった。

・今市少年自然の家「パソコン教室」のメイン講師及びボランティア講師の紹介依頼があった。連続して5日間の講座を実施し、1回につき3名、計15名のボランティア講師が必要とのことで、ボランティア探しに難航した。栃木県メディアボランティア会員の協力によるネットでの呼びかけで、30名近くの応募があった、結果的に1日7～8名がボランティアとして活躍した。

・芳賀青年の家「パソコン教室」のサポートボランティアの紹介依頼に対し、栃木県メディアボランティアの会員で、会場付近在住の2名を紹介した。

・烏山青年の家「パソコン研修」のボランティア講師の紹介依頼に対し、栃木県メディアボランティア会員2名を紹介した。

・県立図書館利用者へのパソコンによる蔵書検索のしかたを指導するボランティアの紹介依頼があった。小・中学生以上を対象とし、年に3回実施するとのことで、ボランティアセンター登録者の中から紹介した。

企画・活動する上でのポイント、留意点など

- ・日光市という国際観光都市ならではの体験活動（観光ボランティア体験、国際交流体験活動への参加等）につながることを予測され、それに適したボランティアを紹介することができた。
- ・多くのボランティアを巻き込むことにより、青少年から成人までの社会参加活動の場となっている。また、ボランティアによるプログラムの企画立案を行うことで、青少年の体験活動支援ボランティアの養成やボランティア活動の場を開発することにつながった。活動プログラム案を県内の公民館等に配布し、事業の県内での広がりにつなげた。
- ・パソコン関係研修のボランティア講師の紹介依頼が増えているが、当センターを活動拠点にしているグループ「栃木県メディアボランティア」と連携をとることにより対応している。ボランティアの活動の場が広がりつつある。

評 価

- ・受け入れ側とボランティア側の考えや意欲が合致するまで相談を重ねたことにより、子どもたちの楽しい活動が展開されている。ただ、ボランティア講師が宇都宮市から会場の日光市まで通っていたので、ボランティアの負担が大きかった。
- ・子どもの自発的な遊び活動・学習活動を支援するた施設開放事業の県内でのモデルとなった。活動プログラムに関する問い合わせがくるなど、県内への広がりがみられる。
- ・ボランティアの需要増にともない、教材や交通費の問題、活動日・時間が複雑となり、コーディネートにもかなりの時間と回数を要している。